

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491500021		
法人名	社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会		
事業所名	認知症グループホーム 和楽路		
所在地	宮城県大崎市鹿島台広長字尻掛杉ヶ崎7番地1		
自己評価作成日	令和3年9月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「家庭的な環境の下で、健康でその人らしく生活が送られ、楽しく過ごす事ができます」をモットーに楽しくのんびりと皆様過ごされております。また、季節を感じて頂けるよう、季節の行事に合ったメニューを計画しております(お正月、誕生日、雛祭り等)。またドライブも随時計画しており、季節を感じて頂ける様努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、大崎市社会福祉協議会が運営しており、鹿島台広長の高台に位置した1ユニットの平屋造りである。日当たりが良く、広いテラスからは鹿島台の街並みが一望でき、四季折々の景観を楽しむことができる。近くには、災害公営住宅が建設中でもある。ホーム理念、「家庭的な環境の下で、健康でその人らしく生活が送られ、楽しく過ごすことができます。」を掲げ、職員間で共有し、個々に合ったケアを行い安心・安全を心掛けながら、理念の実現を目指し支援している。避難訓練や敷地内の草刈の際には、近隣住民の協力があり、交流も図られている。食事は、献立作り、食材の発注から調理まで職員が交代で行っており、利用者の状態や思いを把握しながら提供している。居室は全室畳敷きの和風造りで、利用者が家庭的な雰囲気の中で居心地良く過ごせるよう支援している。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 鹿島台支所グループホーム和楽路 ）「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、年度初めに「理念」について会議を行い話し合いを持っております。職員も再度理念の再確認を行っております	理念を事務所とホールに掲示し共有しており、年度初めに職員間で確認している。健康で楽しく過ごす事をモットーに、一人ひとりのペースに合わせ、のんびり、ゆったりと過ごせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お茶会等開催し、地域の方々気軽にきて頂けるよう努めております。（現在は新型コロナウイルス感染防止の為休止しております）	自治会に加入し、職員がクリーン作戦に地域の一員として参加している。敷地内の草刈りを地域住民が現在でも継続して担ってくれている。コロナ禍以前は利用者が地域の行事等に参加したり、また、地域の祭り(わらじ祭り)のみこしが園庭に来所する等、日々の交流も図られていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お茶会等開催し、講話を取り入れ、地域の方々生活の参考になる様計画しております。（現在は新型コロナウイルス感染防止の為休止しております）		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、書面にて事業内容を報告しております。（新型コロナウイルス感染防止の為会議は休止しております）	会議は、利用者代表、家族代表、地域包括職員、民生委員3名、区長、社協支所長、管理者で構成され、2ヶ月毎に、利用者の生活状況や事業報告、ヒヤリハット等書面で報告し、情報共有を図っている。コロナ禍においては、事業報告を委員に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員が運営推進会議の委員になっており、事業内容を報告しております。	市職員が運営推進会議の委員として参加しており、利用者の待機状況や入退所の報告、介護事故の報告等、定期的に情報共有を行っている。コロナウイルスのワクチン予防接種や各加算処理について相談する等、日常的にも連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議や全体の委員会にて研修しております。職員全員が再確認できるよう取り組んでおります。	身体拘束の廃止の指針、虐待防止に係るチェックリストを作成している。毎月開催している人材育成委員会の中で、虐待防止・身体拘束について話し合い、防止に努めている。玄関の施錠は、防犯のため夜間帯のみで日中は自由に出入りができる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で内部研修を行い、また、毎月虐待防止チェック表を記入し報告しております。	ホーム会議で研修を行っている。毎月、職員一人ひとりが虐待防止チェック表を記入しながらケアを振り返り、情報を共有しながら虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議等で個々に利用者様の必要性を検討しております。必要な際は、早急に対応して参ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時や重要事項説明書の変更の際は随時説明を行い、納得されて上で捺印等頂いております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回満足度調査を行い、利用者様やご家族の意見を伺える機会を持っております。	毎月の便りや3ヶ月毎に書面で、家族報告(運営推進会議の内容やホーム内の状況報告)を行い、意見や要望を聞いている。また、年1回、満足度調査を実施し利用者、家族から意見を聞き、運営に反映している。コロナ禍のため現在、家族報告会は休止している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の経営会議やホーム会議を開催し、職員の意見を聞く機会を設けております。	職員一人ひとりが自己評価を行い、上司との面談や月1回の経営会議やホーム会議、業務日誌等で、職員の意見や要望を把握し、運営に反映している。日々の業務の中でも常に意見・要望が出され、ケアの改善に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や、ストレスチェックを実施し職員のやりがいやストレス度を確認しております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の受講や積極的に資格の為の研修の機会の確保を行ってます		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	宮城県認知症グループホーム協議会に入会し情報の共有に努めております。	「宮城県認知症グループホーム協議会」に加入し、研修会や、意見交換、情報の共有など交流が図られている。コロナ禍で研修会等には現在参加できていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の際、要望等を伺ったり、不安のような際は、傾聴し安心して頂ける様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の際ご家族の不安な事や、要望を伺っております。また随時困っている事が相談できるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様の要望を伺い、支援の優先順位を決め、支援に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、時間を共有することや食事の後片付けを一緒にすることにより一緒に生活している雰囲気を感じて頂いています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の要望も伺い、共に利用者様を支える関係を持てる様努めております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみの方々が来館された際、面会出来る様個室を提供しております。	コロナ禍でも感染対策を徹底し、入り口を分け、階段、手すり、アクリル板等を設置した面会用の個室(面会室)を設け、家族と面会がいつでもできるように支援している。週2回、面会に来る家族もいる。2ヶ月に1回、理・美容師も来ており、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が楽しく過ごせるよう日々環境を整えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常に相談に応じております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に意向を伺いながら支援しております。また傾聴も心がけております。	日常生活の中で、表情や仕草、行動から思いや意向を把握し、支援に繋げている。寄り添い、傾聴を大切にしながら、利用者の気持ちを和らげられるように心掛け支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話す機会を多く持つ事により、利用者様の今までの生活環境を把握できるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の身体状況に合った生活ペースを尊重し支援しております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりに合ったケアを随時話し合い利用者様が安心できるよう努めております。	計画作成担当者が作成した介護計画書は、家族から同意を得ている。介護計画書は、利用者の介護度や家族の意向を考慮し、3ヶ月に1回、ケア会議において利用者の担当職員などの意見も反映し見直している。モニタリングは毎月行い、介護計画作成に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日利用者様の生活の様子を記録し、またホーム会議で話し合い情報共有に努めてます。ケアの統一を図っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣の病院だけではなく、遠方の専門病院への通院等対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お茶会を開催し、地域の方々と交流する機会を設けている(現在新型コロナウイルス感染防止の為休止中)		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に通院しております。変化があった際は主治医に報告しております。	協力医療機関である大崎市民病院鹿島台分院をかかりつけ医とする利用者は、定期的に職員が同行し受診している。受診後は、家族に報告し情報共有をしている。体調に変化があった場合は、家族の了解を得て通院するなど随時対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、変化を逃さず職員間で情報共有し、ケアの変更や主治医への相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際は、本人、ご家族様、医療機関関係者と会議を開催しケアの方向性を決めております。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時身体的な低下が見られた際は、ご家族と相談しケアの変更等を話し合っております。	現在看取りはしていないが、身体機能の低下、重度化になった場合は家族と相談し、他の施設などへの転所支援をしている。11月からは訪問看護ステーションと締結し、利用者の医療面でのサポートをしている。それに伴い「重度化や終末期に向けた方針」を作成し、随時家族や看護師と相談しながら適切な支援をしていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応等内部研修にて行っています		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練行っています。(日中、夜間想定)	火災・地震対応のマニュアルを策定し、年2回、夜間想定を含む避難訓練を実施している。現在は参加は控えてもらっているが、コロナ禍以前は近隣住民が避難訓練に参加しており、協力体制を築いている。スプリンクラーや消火器等の設備点検は、年2回定期的に実施している。備蓄は缶詰め、レトルト食品等1～2週間分である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや個々のケアの統一を心掛けております。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、特に言葉遣いには注意しながら声掛けを行っている。排泄介助時は、さりげなく誘導するなど、本人や周りにも配慮して対応している。呼び名は、名字か名前に「さん」付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日利用者様と多くの関わる時間を持ち、利用者様の気持ちを伺い、自己決定出来る様支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせて支援しております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の必要な物や常時整容が出来る環境を整えております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	禁止食の把握や嗜好を考慮し食事を提供しております。また利用者様のあった食事形態を提供しております。	献立は職員が交代で作成し、手作りしている。利用者の状態に合わせた食事形態、刻みやとろみ食などでも提供している。ホームの畑で収穫した野菜も取り入れ、四季折々の行事食も積極的に提供して喜ばれている。一日の献立表をホールに掲示し、できる範囲での手伝いを促し、食事が楽しみになるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定を定期的に行い、健康管理に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを勧め、夕食後は入れ歯の洗浄を実施してます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	随時トイレ案内を行い、トイレでの排尿を促しております。また、トイレへ行かれた時間を記録しております。	排泄チェック表を作成し、利用者に合わせた声掛けや誘導を行い自立支援に繋げている。便秘対策として、畑で収穫した野菜を多く振り入れ対応している。医師の処方のもと、薬を服用している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄の有無を記録しております。また、運動を提供しております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様のペースに合わせて支援しております。皮膚疾患がある際は、入浴回数を増やしたりと対応しております。	週2～3回を基本とし、一人ひとりの希望や状態に合わせて支援をしている。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず、時間をおいて声掛けをする等、タイミングに合わせて気持ちよく入浴ができるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡は本人様の希望でされたりされなかったりです。夜間は気温の調整や照明の調整を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	文献は個々にファイルし、直ぐに確認出来る様にしております。また服薬状況を薬箱に記載してます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きやテーブル拭き等日常の役割を持って頂いております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を兼ねて、皆で外出をしております。季節の花を見て季節を感じて頂ける様支援しております。	コロナ禍で、例年のような外出はできていないが、気分転換を兼ねて、ミニドライブでコスモス園やあじさい園、桜並木等、季節の花を見に全員で出掛けている。外出傾向が強い利用者や、散歩に出掛ける際には、職員と一緒に同行し、できるだけ希望に添うように支援している。また、高台にあるホームのデッキは見晴らしがよく、季節毎の景観を楽しみながら日光浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は全て事務所でお預かりしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お話しがしたいと申し出がある際は、ご家族とお話しが出来る様支援しております		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では、季節に合った装飾や光を多く取り入れられる工夫をしております。また、年月日がいつでもすぐに確認出来る様見えやすい場所に貼っております。	共用空間には、大きくわかりやすい日めくりカレンダーや時計を設置している。利用者と一緒に、生活感や季節感を取り入れた手作りの作品を飾り、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。細目に換気をするなど感染対策も徹底し、温・湿度も職員によって毎日適正に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室を提供しております。またソファが所々にあり、利用者様同士会話が出来る様工夫をしております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配置は本人様やご家族様と相談して決定しております。また随時配置換えを行っています	居室は全室畳敷きの和室造りである。洗面台、整理棚、ベッド、冷暖房を備え付けており、掃除、衣替え等は、居室担当職員が行っている。家具の配置や部屋の飾り付けは、利用者、家族に相談し居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の前には名札を設置しております。またトイレの場所も分かりやすい様トイレの表示もしております。		